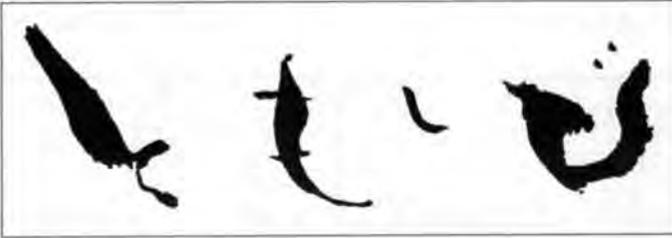


大学婦人協会東京支部

2004. 7
第36号



新支部長挨拶

「見つけてみよう」

新たな自分」

東京支部長 佐々木 澄子



りの中で何かしら新たな発見も得られる。

今年度のJAUW全国セミナーは、国立婦人教育会館での最後のセミナーとなる。東京支部は例年通り実行委員への参加とバザーの催しを勤めたい。支部委員の半数が新人で、各々のポジションも全て変わった今期、去年のような発表はできないが、七月、九月にはセミナーに沿った講演会・勉強会を企画し、盛り上げていきたい。

ここ数年の会員数の減少は、世の習いとはいえ、残念なことだ。特に若年層の参加が望まれる。東京支部では、入会へのお誘いのため、また、会員の方々の交流を深めるためにも、講演会や見学会を企画している。少人数の委員を中心にして、催しが次々と実行される中で、新たな発見が生まれ、お互いの結束もできあがってくる。

また、東京支部はサークル活動も活発で、サークルが魅力で入会されたい方も多いため。そして、支部の活動にまだ参加なさらない方々には、自分のために何かしら見つけられる場を提供できるものと確信している。ぜひ、支部委員誰にでもお声掛けいただきご参加ください。

東京支部総会報告

前書記 岩田 玲子

2004年度東京支部総会は4月17日(土)、津田ホール内会議室で開催された。

支部会員数488名中、総出席者数82名、有効委任状提出者数232名で総会は成立した。

三浦支部長の挨拶に続き議事に入り、2003年度の事業報告、決算報告。次いで2004年度事業計画案、予算案が審議され、承認された。新年度セミナーへの参加を見合わせたことにご理解をいただき、またIFUW総会への準備を事業計画案に組み込むべきことのご指摘に支部としては真摯に新年度にとりくませていただくというご賛同を得た。

新役員、委員が承認、紹介され、佐々木新支部長が新年度に向けた抱負を語られ、議事は終了した。

続いて、今井会長から東京支部の今後の活動へのご助言、励ましのおことばをいただき総会は終了した。

記念講演は、朝日新聞記者竹信三恵子氏により、「女性記者走るー男性型メディアの限界に挑んでー」という演題で行われ、凛とした女性像を見せていただいた。

- ・東京支部総会報告
- ・記念講演「女性記者走る」竹信三恵子氏
- ・「デンファレの花の重さ」国際奨学生 キム・ジョムヒ

四月十七日、都心には珍しい新緑溢れる千駄ヶ谷で支部総会が開催され、新委員十名を加え、総勢二十二名のチームが発足した。大役を引き受け、身の引き締まる思いだが、出身校も違う者同士、たくさんのお出合いの中、二年後には、何かを得られたいとお互い思えるようになりたい。

さて、「ともしび」今号には東京支部委員会の各係の仕事や、サークルについての紹介がされている。東京支部は他の地方支部とは異なり、委員会の活動や協力は小さいが、JAUW本部の活動にも関係している。

例えば、十二月の自然科学講演会、新春の集いにおける国内奨学金贈呈式、三月の国際奨学生報告会などは本部との共催で、それらに参加することにより、支部活動を越えた広が

2003年度(社)大学婦人協会東京支部決算報告書

2004年度予算

2003. 4. 1 ~ 2004. 3. 31

2004. 4. 1 ~ 2005. 3. 31

収入の部

(単位 円)

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 会費収入	1,395,000	1,311,000	-84,000	437口×3,000	1,305,000	435口×3,000
II 基本財産利息収入	800	42	-758		100	
III 運用財産利息収入	200	8	-192		100	
IV 寄付収入	300,000	333,944	33,944	パザーサークル 講演会一般参加費 他	300,000	パザーサークル 講演会一般参加費 他
V 雑収入	39,200	39,200	0	入会還付金 賛助会員還付金 他	30,200	入会還付金 賛助会員還付金 他
VI 調査研究費	50,000	44,868	-5,132		0	全国セミナー研究発表(本部より)
A 当期収入合計	1,785,200	1,729,062	-56,138		1,635,400	
B 前期繰越金	832,997	832,997	0		737,089	
C 収入合計(A+B)	2,618,197	2,562,059	-56,138		2,372,489	

支出の部

科目	予算額	決算額	差異	備考	予算額	備考
I 管理費	987,200	969,085	-18,115		1,050,000	
(1) 備品費	10,000	291	-9,709		10,000	
(2) 消耗品費	110,000	98,599	-11,401	コピー代 用紙 他	110,000	コピー代 用紙 他
(3) 印刷製本費	30,000	30,500	500	支部のお知らせ 封筒 他	30,000	支部のお知らせ 封筒 他
(4) 通信費	327,200	266,105	-61,095	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他	300,000	支部のお知らせ ともしび 本部会報 他
(5) 交通費	70,000	55,000	-15,000		30,000	発送手当
(6) 事務所費	120,000	220,000	100,000	本部へ分担金		
(7) 事務手当	320,000	298,590	-21,410	職員給料一部負担 他	570,000	事務所費及び職員事務手当 他
II 運営費	110,000	137,325	27,325		120,000	
(1) 総会費	70,000	97,670	27,670	会場費 他	80,000	会場費 他
(2) 委員会費	40,000	39,655	-345		40,000	
III 事業費	900,000	718,560	-181,440		600,000	
(1) 一般事業費	600,000	418,560	-181,440	ともしび(2回) 講演会 寄付 他	500,000	ともしび(2回) 講演会 寄付 他
(2) 国内奨学金	100,000	100,000	0	国内奨学金寄付	100,000	国内奨学金寄付
(3) 調査研究費	200,000	200,000	0	全国セミナー調査研究	0	全国セミナー調査研究
IV 雑費	10,000	0	-10,000		10,000	
V 予備費	10,000	0	-10,000		10,000	
D 当期支出合計	2,017,200	1,824,970	-192,230		1,790,000	
E 当期収支差額(A-D)	-232,000	-95,908	136,092		-154,600	
F 次期繰越金(C-D)	600,997	737,089	136,092		582,489	

基本財産状況：普通預金 ￥4,360,000 中央三井信託銀行新宿西口支店
 運用財産状況：繰越金 普通預金 ￥702,712 中央三井信託銀行新宿西口支店
 現金 ￥34,377

会 計 小池朋子 河井尚子

厳正に監査いたしました結果、正確に記載されており、間違いのないことを証明いたします。
 2004年4月17日 会計監査 高井敬子 坂上栄美子(印省略)

大学婦人協会東京支部
 二〇〇四年度役員・委員名簿

支部長 ● 佐々木澄子(東女)
 副支部長 ● 片柳 洋子(大女)
 ● 福士仁三代(奈女)

書記 ● 細田 照子(実)
 ● 桑折 美子(奈女)

会計 ● 森川 淳子(茶)
 ● 田辺 範子(茶)

委員 ● 芦澤紗知子(日女)
 ● 今村 麻子(東女)
 ● 岩田 良子(日女)
 ● 岡部 道子(日女)
 ● 寺内 直美(東女)
 ● 端本 和子(日)

● 長谷川千恵子(津)
 ● 早瀬 暢子(津・院)
 ● 堀内 洋子(津)
 ● 三浦 久子(大女)
 ● 三浦 洋子(実・慶)
 ● 村木 晴子(津)
 ● 結城 愛子(聖)
 ● 吉原 雅子(日女)
 ● 渡辺 加代(聖)

会計監査

● 坂上栄美子(大女)
 ● 三浦由紀子(茶)
 (五十音順・印新役員、委員)

第47回通常総会報告

副支部長 福士 仁三代

全国総会は4月3日から京都で開催された。今年は春の訪れが早く、春爛漫、満開の桜の季節となった。

初日は評議委員会、支部長懇談会に続いて夜は懇親会が開かれた。京都生まれでマリンバ奏者として活躍中の通崎睦美さんがそのお仲間と共に、あてやかな音色と奥深いマリ

ンバの演奏を披露してくださいました。翌日の総会には、24支部、235名（東京支部からは65名）が出席した。今井会長を議長に、例年どおり各委員会、各支部、国庫補助事業（全国セミナー）などの活動報告の後、

午後からは審議・懇談が行われた。今年役員・監事4名の交替があり、新役員の承認と紹介がされた。

国庫補助事業は、テーマを「グローバルな21世紀を生きる―平和・平等・教育の視点から―」とした。

2005年には当JAUWが所属する国連NGO国内婦人委員会主催の「中東女性交流」の担当団体として予定されており、それに繋がる調査なども望まれている。国際奨学金について、1月の臨時総会で決定した「基本財産一部取り崩し」が文科省より

承認された旨の報告があった。その他、会員資格、名称変更、IFUWの会費負担の問題など、活発な意見交換がなされた。

青木IFUW会長からは、IFUWは国際的に大いに評価され、日本などからの信頼が篤いこと、日本にも常にその繋がりを意識した活動を期待したいというお話があった。

総会後は、ホテル前のライトアップの二条城を散策する人、円山公園の夜桜見物に出かける人など、それぞれに京の春の宵を満喫しようとした。

京の街は何度訪れても優しく迎えてくれる。もう少しゆっくりしたいと思いを残しつつ、私自身はその日のうちに帰路についた。新幹線を降りた東京はみぞれ混じりの寒い夜。京の春と支部の皆様のおもてなしが

暖かく思い起こされた。

（次期通常総会）
会は2005年4月9日、10日、横浜で開催の予定



京都支部主催

「桃山文化」コース



総勢五十
二名、京都
支部のご案内
内の方四名
で、宿泊ホ
テルのすぐ
前の二条城
へ、ガイド
さんの後に
ついて歩い

ていった。前日の雨に耐えてくれた桜が、薄紅色を湛えて、松の緑をバックに「綺麗」の一言だった。二の丸庭園の宝来鳥、四方正面の庭、清流園を巡ってお城に上がる。

全体が八百もの畳とかで、各部屋は、二十畳或いは、四十畳と区切られていて。機能によって分かれ、襖絵は、今なお色彩を残し、何度見ても素晴らしかった。有名な十五代將軍慶喜の大政奉還を発表した大広間を目の当たりにして、はるか遠い昔に思いを馳せた。

次にバスより東山三十六峰を見ながら、鴨川を渡り、高台寺へ向かう。ここは、桃山時代の終わり、秀吉没後、北の政所「ねね」がその菩提

を弔うため、開創した。桜船廊の中ほどの観月台、北の政所が眠る霊屋、などは創建時の建物で、重要文化財である。秀吉に注いだ「ねね」の愛情の深さが感じられ、このような国の宝が、未永く存在するよう、手を合わせた。

次に、一般には非公開の門跡寺院妙法院へ。秀吉が父母のために造った庫裏は、吹き抜けで、高い屋根は火の見櫓の役もしたという。虎溪の庭は特別名勝とされ、それをはさんで、黒書院、白書院がある。時の後白河上皇が「法住寺殿」の造営に着手した、皇室に縁のある寺社で静かに落ち着いた場所だった。

パークホテルで昼食の後、西本願寺の飛雲閣の拝観となった。御影堂は、江戸初期に次ぐ二回目の棟積みで、屋根の修理中だった。丁度良い機会にめぐり合い、工事前の素屋根が作られ、府職員の引間さんの説明も丁寧でよく分かった。

最後の見学場所を終え京都駅に向かう車中、ふと「しばし旅立ちたるこそ、目さむる心地すれ」（吉田兼好）の思いを味わっているうち駅に着いた。お見送りいただいた京都支部の方々から感謝をし、解散した。

（江口 昌子）

京都支部主催

「絢爛そして侘」コース

「絢爛」「侘」この語句にひかれて、私は迷うことなくこのコースを選び、期待をした。

まず金箔二万枚を張り巡らした豪華な佇まいの金閣寺に眼を見張る。

さらに、池の水面に映える逆さ金閣の美しいこと。そして古今の名席といわれる「夕佳亭」は南天の古木の床柱と萩の違い棚など如何にも侘の境地である。金閣・鹿苑寺を後に本阿弥光悦が二十二年間暮らした光悦寺に向かう。洛北の鷹が峰三山を望む緑多いこの地で、閑静な佇まいの茶室のうち特に太虚庵は、光悦没後廃滅し、大正四年に現在のものに復興したのだが、光悦生存の頃に催された茶会をイメージして楽しむことができる。竹で遠近法を取り入れて組んだ巧みな技の光悦垣も見事な物。何より感心したのは、この時代に村づくりの構想を持って芸術村を築いたことである。現在、東京都は街づくり政策をうちだし、時代・規模こそ違っても環境を活性化するという点では共通点を見出し感服した。

洛北・紫野の一角にある大徳寺に

は、政治権力の流れと深く関わりあつてきた利休の木像を置いた唐様山門・金毛閣がある。利休が権力者に屈服することを拒否し、生命を賭して守つたものは何だったのか、とふと考へた。しかも木像まで磔刑にしたというのである。

早く響く鶯張りの廊下を踏みしめながら、狩野探幽の襖絵や小堀遠州作庭の枯山水庭園など、心も落ち着き贅沢な至福のひと時をすごした。むかし使われていたという煤けた竈も歴史を伝えるものであった。時間がなくなり、高桐院へは行かず、二条城へ向かう。二条城二の丸御殿の美しさは、ライトアップされた昨夜の美が強烈に浮かんで、その折写真に撮らなかつたのを悔いた。庭園もやわらかい日差しの中、ひととき美しく心温まる想いを抱いて帰路に着いた。



良い計画をしてくださいました京都支部の方々から感謝申しあげます。
(岡部 道子)

講演 (04・5・26)

「一葉とジェンダー」

「初期作品を中心に」

講師 橋本 のぞみ氏



二〇〇三年度国内奨学生であり、樋口一葉を中心とする明治・大正期の女性文学を専攻する橋本のぞみ氏は、日本女子大付属高校の非常勤講師としても活躍中である。

一葉は明治五年に生まれ、長兄が病死した翌年父が後見人であったとはいえ、十六歳で家督相続をした。

翌年父が病没した後は針仕事等で生計を立てていたが、十九歳で小説家として立とうと意思を固めた。当時女である一葉が自分の意思を自分で決める事ができたのは「戸主」という立場にあったから遂行できたのではなかったかという観点から、一葉とジェンダー(社会的・文化的性)へと話が進められた。

二十歳で半井桃水の尽力で「闇夜」を発表。「分かれ道」「経つくえ」「うもれ木」は初期作品の代表作であり出世作といわれ、橋本のぞみ氏は作品の登場人物三人をジェンダー意識の下で分析・講演された。

それによると主人公藤三は、国民主義者として周りの墮落者を批評しながら、一方で自分も功名心を垣間見せる個人主義者でもある。辰三は慈善家と偽善家という二面性の顔をもつ。お蝶は「家の女」から「個」へと変化を見せるが女徳という呪縛から「操を破つて操をたてんか」という愛の葛藤から死を選ぶ。氏はこのように分析して、三者のそれぞれに当時のジェンダー問題を投げかけた。さらに男性中心社会の根深さからみれば、一葉の社会認識は作品として評価されるものでありジェンダー観も初期一葉のその時代の深淵さが見てとれるという。それは一葉の日記を通して当時の作家のジェンダー観を投影しているという。

今秋一葉の新五千円札を手にした時去来するものは何だろうか。
(三浦 洋子)

サロンJ(04・6・8)
若い会員をどのようにして
増やすか

ーオーストラリアYWCAに学ぶー

講師 江尻 美穂子氏

今回のサロンJは、第28回IFUW総会の地、オーストラリアの話題を提供するという趣旨で開かれた。

江尻氏は国連NGO国内婦人委員会の他、数々の団体の委員長を務めておられ、世界の事情にもくわしい立場で説明して下さった。

JAUWの発展のために、すべきことは何か、ということ、オーストラリアのYWCAが10年かけて組織の躍進を図ってきた経緯を参考に、レジュメを提供された。抜粋すると、

1. 会の目的の明確化(定款の説明)
2. 戦略を立てる(具体的目標、方法)
3. 若い女性が入会しやすい理由
4. メンートル(優れた指導者)の養成とベア研修

などで、日本とオーストラリアは、国情も、社会情勢も違うが、若者の置かれた環境などを考慮すると、とても参考になり、IFUWへの関心が高まることを期待したいと思う。

梅雨空のもと、参加者一同、熱心に語り合い、JAUWのサロンは爽やかであった。(三浦由紀子)

「デンファールの花の重さ」
2003年度 国際奨学生
キム・ジヨムヒ



この前、電車に乗っていたら突然隣に座っている四十代位の女の

人から話しかけられた。「あなたは医学の勉強をしている人ですか?」はいと答えたら、「私、実は痛なんです。が、ちょっと話を聞いてくれませんか」と言われた。そのとき、私は神経解剖の本を読んでいた。二年前に癌で手術をし、来週は肺の手術なんです。が、肺ってどこら辺にあるのですか」という質問から話は始まった。

独身で、きょうだいもないようだった。目がとても孤独でさびしそうだ。肺の手術をしても、もう命は長くないのでは…。なのに、ホテルでハードな仕事を続けざるを得ない。誰もその痛みを共にする人のいない寂しさが、私に何とも言えない空しさを感じさせた。

家族の病気を目の当りにし、そばでその痛みを共にしているうちに、私の体の中から何かが湧き出し、それがきっかけで、人々を重い病気が救いたいという気持を抱き、研究

者の道を選んだ。しかし、最近では現代医学より、むしろ家庭の暖かい看護、愛が持つ力を、つくづく感じるようになった。

一緒に乗った十五分間、私は彼女に何もしてあげることができなかった。ただ、聞いてあげられる以外は、

「今日、ホテルで結婚式があり、残った花をもらったんですよ。これなんかの縁だと思っただけで、どうぞ遠慮なく一本もらってください。そして、勉強がんばってくださいね」

私は自分の中に、そのたった一本のデンファールの花の重さを感じ続けているのだった。

サロンオペラを楽しむ

(財務委員会) 斉藤 智恵

オペラといえば、どなたもオーケストラと共に上演される華麗な大舞台を思い描かれることでしょう。

でも、ここでご紹介するNPOサロンオペラ・トナカイは若手演奏家たちの育成を目的としたピアノ伴奏によるこじんまりとした舞台です。

財務委員会では、新しい企画として「昨年より「こうもり」をはじめとして「トスカ」昔懐かしい「ボツカチオ」ほか、最近では「リゴレット」や「ルチア」などのサロンオペ

ラの鑑賞を行っています。小舞台、限られた出演者で演奏時間も二時間余り、ハイライトなので本格的なオペラの華やかさ・壮大さには及ぶべくもありません。でも、二期会や藤原歌劇団所属の力のある若手歌手たちが聴衆の目の前で、また客席の中で唄う有名なアリアの数々、その豊かな声の響きに包まれる至福の一時。

これこそ小さな演奏会場ならではの楽しみではないでしょうか。それに原語での上演のときは字幕スーパーム入ります。

三月の「リゴレット」年老いた道化リゴレットとその愛する娘ジルダの悲しみ。パルトンの深い響きとソプラノの美しさに魅了されました。

五月は日本での上演は稀という難曲「ルチア」政略結婚のため引き裂かれるルチアと恋人エドガルドの悲劇。あまりにも有名な狂乱の場は期待に違わず、いずれ劣らぬ熱唱に酔いしれ惜しみない拍手を送りました。

今後の上演予定は「天国と地獄」七月二十四日より二十七日まで日により昼の部、夜の部あり自由席五千円 残り 若干名

お問い合わせ 財務委・斉藤まで
Tel・Fax 〇四六七一四五―八〇五八

今年度からの新委員

”どうぞよろしく”

この3月に職場を定年退職いたしました。これを機に新しい世界を拡げたいと思い4月に入会させていただきました。楽しく、有意義に活動できたと思っています。

芦澤紗知子

本年度より入会させていただきました。皆様との出会い、種々の企画を楽しみしておられます。少しでもお役に立てましたら幸いです。どうぞよろしくお願ひいたします。

今村麻子

お誘いを受けバザー係として皆様のお仲間に入れていただきました。微力ですが、できるだけのご協力をさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

岩田良子

以前からJAUWに関心はありましたが、勤務していた間は参加出来ずにおりました。今回、時間の調整が自由になって先輩の良きご指導のもと励みますので、どうぞよろしく。

岡部道子

4月からお仲間に加えていただきました。皆様にお教えたいただき

ら、少しでもお役に立てますよう、また、楽しく過ごせますようにとおっております。

早瀬暢子

充実した「ともしび」作りを目指してがんばります。会員の皆様が気軽に感想などを話せる場所になればいいな、とも思っています。どうぞよろしく！

堀内洋子

何も分かりませんが、先輩方や皆様方に教えていただきながら、楽しく前向きな気持ちで活動したいと思っています。どうぞよろしくお願ひいたします。

三浦洋子

東京支部の輝かしい伝統を引き継ぎ、支部の活動を「ともしび」を通してお伝え出来ればと思っております。新たな出会いを楽しみにしております。

村木晴子

テニスの先輩にお誘いを受け入会いたしました。仕事もしておりますので、限られた時間しかお手伝いできませんが、よろしくお願ひいたします。

結城愛子

横浜で日本そばをやっています

す。時間の余裕がないのにも拘らず引き受けてみました。面白いと良いですね。よろしく。

寺内直美

各係のチーフからの
メッセージ

◆会員係

支部委員の皆様の大切な名簿管理と、会報・講演会・見学会のお知らせ、事務連絡などの發送用宛名シール作成を担当いたします。本部の会員委員会とも連携してまいります。ご住所の変更などは早急に支部へご連絡下さるようお願いいたします。

(チーフ 長谷川千恵子・三浦久子)

◆講演・見学会

本年度になり、4月に朝日新聞生活部・竹信三恵子氏、5月に昨年度国内奨学生の橋本のぞみ氏の講演が無事に終わり、6月28日の旧岩崎邸の見学会、7月28日にはカメラマンの菅沼隆二氏の講演会を予定しております。秋以降も皆様に楽しんでいただけるようなよい企画を、と思っております。多数の皆様のご参加をお待ちしております。

(チーフ 早瀬暢子・渡辺加代)

◆バザー係

会員の皆様のご協力の下、国内奨学金や、支部活動の一端をになうことが出来感謝いたします。皆様に喜んで頂ける品揃えを心掛け、新入会員の四人と協力して参ります。

品物のご提供、仕入れ先の御紹介等の情報、宜しくお願ひ申し上げます。

(チーフ 吉原雅子)

◆サークル係

会員相互の親睦を図るため、東京支部では現在五つのサークルが活動中です。趣味も勉強も楽しむことから、と言ふ方々の集まりです。会員の皆様のご入会をお待ちしています(詳しくはサークル紹介の欄をご覧ください)。

(福士仁三代)

◆ともしび係

東京支部の活動の報告、お知らせを載せて年二回発行しています。新入会員の二人とともに協力して紙面を作っていくかと思ひます。

(チーフ 端本和子)



事業報告・予定

- 4・3 JAUW第47回通常総会
4) 於 京都
- 4・17 東京支部総会
記念講演

「女性記者走るー男性型」
メディアの限界に挑んで」

講師 竹信三恵子氏

- 5・8 守田科学研究奨励賞贈呈式
講演会

「一葉とジェンダー」

ー初期作品を中心にー

講師 橋本のぞみ氏

- 6・28 見学会「旧岩崎邸」
7・1 「ともしび」第36号発行

- 7・28 講演会

「アフガン見たまま」

聞いたまま」

講師 首沼隆二氏

- 10・9 JAUW全国セミナー
10) 於 国立女性教育会館

- 12月 講演会
科学研究奨励委員会と共催

- 1月 新春のつどい

国内奨学金贈呈式

- 2月 講演会

- 3・1 「ともしび」第37号発行

以後の事業は追ってお知らせします。

サークル紹介

★英語講座

- 第一・三金曜日

午前十時～十二時

- 大久保地域センター三階

- 講師・松本節也元法政大学教授

「さし絵入り英国史」を講読中。

講師による詳細な訳註、ヒアリング用のテープ、参考資料をもとに輪読しています。

メンバーを若干名募集中です。

連絡先・伊藤美美子

(☎〇四六三一九五〇四三六四)

★楽しい俳句会

- 第三水曜日 午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

●講師・柴崎富子会員

柴崎先生の熱心なご指導のもと、名句が次々生まれ、目下、合同句集を作成中です。

新会員も募集中です。

連絡先・小池朋子

(☎〇四五一九〇二一九七三〇)

★源氏物語を読む会(Ⅰ)

- 第三・四水曜日

午前十時半～十二時半

津田塾大学同窓会・会議室

講師・坂上栄美子会員

「若菜下」の巻を読んでいます。

連絡先・平田宏子

(☎〇四一七二四三二一五七三)

★源氏物語を読む会(Ⅱ)

- 第二・三・四火曜日

午前十時～十二時

津田塾大学同窓会・会議室

講師・坂上栄美子会員

「野分」の巻を読んでいます。

連絡先・中山律子

(☎〇三三三三三三六四六二八)

★フラワーデザイン

- 第三火曜日 午後一時半～三時半

- JAUW事務所会議室

●講師・河井尚子会員

お花から生気を貰い、それぞれが個性を発揮する場となっています。

若干名、余裕があります。

連絡先・山崎邦子

(☎〇四五八八一八九〇〇二)

★会員相互の親睦をはかるために、

どのサークルも和気あいあいと楽しく活動しています。また、余裕があるところもありますので、ご入会希望の方は係までご連絡下さい。

望の方は係までご連絡下さい。

お知らせ

JAUW 全国セミナー

時：2004年10月
9日(土)～10日(日)
場所：国立女性教育会館
(武蔵嵐山)

テーマ

「グローバルな21世紀を
生きるー平和、平等、教育の視点からー」

■お願い■

▼会費未納の方はお早めにお振り込みください。その際、払込用紙の裏に書いてある「払い込みのご案内」を必ずご参照ください。(会計より)

▼住所変更やその他のお知らせは、東京支部あてに、事務所に連絡ください。

▼使用済みの切手、プリペイドカードのご協力もよろしくお願いいたします。

〈編集後記〉

7月を「文月」というのは七夕に詩歌の「文」を供えるからだという説もあります。この文月に無事36号を出すことができました。原稿の依頼に対して快くご協力いただき感謝申し上げます。牽牛と織女の年一回の逢瀬が叶うことを祈りつつ…。

(編集委員一同)

